

平成30年度 学校評価 総括表



清新 敬愛 力行

奈良県立西和清陵高等学校

平成30年度 学校評価総括表

奈良県立西和清陵高等学校

教育目標	教育環境の整備を図り、活力と創造力をそなえた人間形成を学校教育全般で育み、地域との連携を強化し、社会人として「生きる力」を育成する。		総合評価
運営方針	(1) 地域と共にある学校づくりの推進 (2) 教職員全員による学校経営への参加 ①報・連・相の徹底 ②教える者自身が学ぶ (3) 学校教育の充実と生徒理解の推進 ①子供たちの可能性を最大限引き出す ②部活動の活性化、生徒会活動の活性化 ③学校行事の充実 ④総合的な学習の時間等、体験学習の機会の充実 (4) 広報活動の充実		
昨年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標	
<p>学習指導においては、72%の生徒が「授業が分かりやすい」と回答しており、日頃の基礎的・基本的な内容を大切にされた授業の工夫・改善の成果であったと考える。一方、自主学習時間の確保が課題であり、様々な機会を通してその重要性を認識させたい。また、進路実現のため、3年生の促進講座の受講者数を増やすことも課題である。</p> <p>生徒の規範意識の向上は、校内外の生活の様子からうかがうことができる。しかし、遅刻だけを見ると、まだまだ指導の余地を残している。きめ細かく丁寧な指導を心掛けていきたい。</p> <p>部活動は学校の活性化に繋がるので、加入率を高めたい。入学生への部活動紹介を、部活動生徒とともに充実したものにするための取組を年度当初から行っていく。また、途中退部者を減らすための工夫も必要である。</p> <p>地域の活動では、生徒会本部役員を中心に、「あいさつ運動」「障害者施設へのクリスマス訪問」等の充実した取組ができた。今後は、地域との協働活動を目指し、裾野を広げていきたい。</p>	<p>○基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、確かな学力を身に付け、学ぶ意欲を高める。</p> <p>○基本的な生活習慣や規範意識の向上に取り組み、社会に適應できる人づくりを目指す。</p> <p>○正義感や責任感、連帯感を育み、思いやりを持つ豊かな人間性を育成する。</p> <p>○たくましい体力と強い精神力を育む。 ○危機管理の共通理解。</p> <p>○地域との連携を一層強化し、「地域と共にある学校づくり」を推進する（校内外の美化活動）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・反復することで、確かな学力を身に付ける。 ・知識や技能を活用して、課題解決力（思考力・判断力・表現力等）を育成する。 ・進路実現に向けて、自ら学ぼうとする力を身に付ける。 ・学力と生活習慣（家庭学習の定着）の関連性を理解させる。 ・「志」（目標）を持たせる。 ・本校生としての自覚を促し、挨拶を励行し、服装身だしなみをただす。 ・社会の一員としての生活態度を育成する。 ・遅刻指導を通して、時間を大切にする態度を育成する。 ・道徳教育を充実し道徳性を養う。 ・ホームルーム活動で人権教育・特別支援教育の充実を図る。 ・学校行事等の中から連帯感を共有させる。 ・清掃活動等の中から奉仕の精神を学び、達成感や成就感を育成する。 ・いじめの根絶と早期発見、早期対応の取り組みの徹底。 ・安全教育（救急体制の徹底等）、安全教育（交通安全等）、食育指導（朝食の徹底等）を充実させる。 ・部活動をより活性化する。 ・健やかな体の育成に向けて、主体的に取り組む力の育成。 ・生徒会活動を一層活性化する。 ・地域のボランティア活動を強化する。 ・プロジェクトチーム、教職員、生徒会、家庭クラブ、部活動、学級活動等の連携を図り、地域を取り込んだ協働活動を実践する。 ・郷土への愛着を深め、魅力について調べ、郷土に根ざした教育活動の充実を図る。 	B

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
学習指導	基礎・基本の学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識を高め学習意欲の向上を目指して、自主学習時間を1日1時間以上させる。目標達成率50% 	C	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査結果 (%) ()は当該年度の昨年データは次のとおり。 1年平日42.8、休日48.7 2年平日18.3、休日22.6 (平日42.9、休日58.1) 3年平日16.3、休日26.2 (平日19.2、休日31.3) 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も更に授業展開方法の工夫や教材研究を行う。 予習・復習や課題の提出等の指導だけではなく、進路実現に向けて、家庭での学習の重要性を認識させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい授業の展開をしている。生徒の79%が意欲的に授業に取り組んでいると回答している。教員の38%とはギャップが大きい。生徒自身に学習状況を振り返らせることが必要。
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒が理解できる、分かりやすい授業を展開する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート（生徒）によると、72%が本校の授業は分かりやすいと評価している。 			
特別活動	ボランティア活動への参加・啓発	<ul style="list-style-type: none"> 募金活動、ボランティア清掃等への参加を増やす。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 募金活動を2回実施できた。大和川クリーンキャンペーンの参加を続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各ボランティア活動に各委員会の参加を啓発できればと検討している。部活動加入率においては引き続き紹介と体験の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動体験の機会を増やしたり、体験内容の工夫を行ったりするなど、新入生が部活動に参加しやすいような試みが大切。
	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会で行う内容を見直し、委員会活動から学校の活性化を促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活委員が挨拶運動に参加するなど成果もあったが、活動量に差が出ている。 			
	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 部活動紹介・体験を充実させ、加入率60%を目指す。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率は学年末において42%であった。 			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導対象者および指導内容を共通確認し指導する。昨年度の20%減を目指す。遅刻指導を通して健康への意識高揚を図る。 一斉頭髪、服装点検を定期的実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻数が昨年度比約10%増加した。遅刻に対する意識改革と指導強化を図る。 一斉頭髪、服装点検の定期的な実施が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の見直しと定着の指導を強化していく。 共通理解、意思統一のもと、きめ細かく丁寧な指導を粘り強く継続する。 生徒会、委員会活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導においては、日頃から指導を継続している様子がよく分かる。挨拶などはしっかりとできる生徒が増えてきた。規範意識の向上については、HRなどで、具体的な事例について考えさせたり、日常の生活を振り返らせたりする。
	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートを実施し自己認識を高め、また、全校集会を通して集団意識の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別指導、苦情件数が昨年度とほぼ同数であった。さらに規範意識の徹底が必要である。 			
	あいさつの励行	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の校門でのあいさつ運動、SHRを通して、コミュニケーションを意識させ、その能力向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全教員による登下校指導が継続出来た。 生徒によるあいさつ運動が定期的に出てきた。 			
進路指導・キャリア教育	進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に必要な学力を養成するために、年間を通して促進講座を実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 促進講座は各教科の協力で実施出来たが参加人数が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路に対して出来るだけ早くから関心を持つように考える。 保育園訪問や進路ガイダンスは将来に向けての刺激にはなっていると思うので内容など考える必要もある。 進路資料室等の準備は出来ていると思うので多くの生徒が利用出来る工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 促進講座に参加する生徒を積極的に集める方途について工夫する。 生徒への進路情報を小まめに提供できている。次は、生徒自身がその情報の活用の方などをしっかり身に付けさせる。
	キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 保育園実習などを2回実施する。 進路講演会、進路ガイダンスを、各学年で年2回実施する。 インターンシップの案内、集計をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保育園実習のための講義等ができた。 ガイダンスは各学年に協力を頂き2回ずつ実施できた。 数は少ないがインターンシップの参加者もいた。 			
	進路情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 「進路ニュース」を年6回発行する。 進路説明会やオープンキャンパスの案内、進路情報誌の適切な提供を行う。 進路資料室の利用を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「進路ニュース」の発行が出来た。 進路室前に掲示・閲覧が出来るように案内を掲示等できた。 PCは3台だから必要生徒が利用できた。 			
人権教育	人権意識の確立と仲間作り	<ul style="list-style-type: none"> 人権HRを充実させることで、人権意識・ボランティア意識・道徳意識の確立を図る。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> クラスの現状を考えながら、人権HRを展開することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な問題が起こっている昨今、何を大切にしなければいけないかをよく考え、その時々に必要な研修・研鑽の機会を設けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年内で工夫して人権HRを展開してもらった。 人権学習会を通して、生徒が自分と照らして様々なことを考えたことと思う。
	生徒・教職員・保護者の人権意識の高揚と連携	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な研修会や学習会の企画・運営。 生徒・教職員・保護者の共通した意識の高揚とそれに対する啓発活動の具体化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権学習会として、在日韓国人の新井深絵さんをお迎えし、歌とお話を聞いた。生徒の心に訴えかけるいい学習会・講演会であった。 			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
教育相談 特別支援教育 (教育相談室)	教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー配置事業の有効な活用に努め、精神的な不安を抱える生徒への相談の充実に努力する。 ・校内教育相談体制の構築に努める。 ・外部機関（教育研究所・医療機関・スクールカウンセラー等）との連携を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「配慮を要する生徒」についての外部機関との連携が図れるようになった。 ・生徒のカウンセリング後、担任とカウンセラーとの情報交換の場が定着をした。 ・情報交換等に時間がかかり終了時間がかかり遅くなるのが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの有効利用を認識してもらう。 ・「配慮を要する生徒」の情報共有が円滑かつ厳正に行われるために教員同士のコミュニケーションを密にし、報告書のまとめと更新をまめに行う。 ・発達検査結果を受けた支援を充実させるために支援員の増員が必要である。 ・中学校訪問の情報を受け、早い時期に生徒の状況把握を行い、個々の支援、指導方法を早めに確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーに丁寧に対応をいただいている。事後の情報交換も万全である。
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい等により特別な教育的支援を必要としている生徒の実態把握に努める。 ・学習活動や生活全般にわたる支援の促進と充実を図る。 ・特別支援教育支援員制度を活用して、効果的な授業中の学習支援に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問に早期に発達障害などの生徒が把握でき、早い段階からの支援体制がとれるようになった。 ・11月に行われた職員研修では発達障害についての知識を深めることができた。 ・発達検査を受けどのような支援が必要かという結果を受けながら、支援員が一人のため個々の生徒に十分な授業支援ができなかった。 ・生徒の支援の取組にあたり、教科担当の意識や授業間の休みの立ち番など全職員の協力を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生訪問の情報を受け、早い時期に生徒の状況把握を行い、個々の支援、指導方法を早めに確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態が多様であり、きめ細かな対応が望まれる。持続的な取組ができるよう、教員に過度な負担がかからないように配慮が必要である。 ・職員研修等、今後もニーズに合った内容を開催する。
保健・安全管理	生徒の心身の健康状態把握と対処	<ul style="list-style-type: none"> ・各検診の事前、事後指導の徹底を行う。 ・健康調査票、定期検診、学校保健委員会を通した生徒の身体状況、健康状態の共通理解をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各検診の事前、事後指導を個別に行った。 ・各研修等を開催し、教職員・生徒の共通理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校医や他機関と連携し、教職員の意識の向上と知識の深化を図る。 ・生徒自らが健康問題に興味をもつて、改善していく努力をしていくための指導とサポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに各検診が行えた。引き続き取り組むこと。 ・熱中症やアレルギーなど、救命救急に関わる報道等が多い。教員も生徒もすぐに対応できる体制を整える。
	危機管理体制の整備と安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校内救急体制マニュアルに基づき、緊急時の適切で迅速な体制の共通理解を図る。 ・生徒指導部と連携した生徒対象の安全教育を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内救急体制マニュアルに基づき、適切で迅速な体制の周知徹底ができた。 ・職員、生徒対象に熱中症講座を開き、応急手当の理解を深めた。 ・「目のセミナー」を行い、コンタクトの正しい使用方法について講習を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携し、食育の重要性を啓発していく場を設けることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の重要性を啓発するような、簡単なイベント等を検討する。
	食育教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の生活実態に基づいた、食育推進体制の強化と指導全体教育の推進を行う。 ・生徒、保護者への啓発活動を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保健や家庭科授業と連携し、栄養の摂り方や、楽しく食事することの重要性を学習した。また、体育授業では朝食をしっかり摂って体を動かすことを強調した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携し、食育の重要性を啓発していく場を設けることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の重要性を啓発するような、簡単なイベント等を検討する。
教職員の研究・研修	生徒の実態・ニーズを踏まえた研修の実施。実践につながる研修講座への参加。教科の枠を超えた授業公開・授業研究の実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領、高大接続改革に関わった教科・進路研修会等への参加したり、教科指導研究を行ったりする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で、県主催の教育課程研究集会に参加したり、先進校や予備校等で開催された研究会などに参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの教員が各種研究会に参加するとともに、その成果を授業等に積極的に生かすことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の研修会は、ニーズに合った充実したものであった。 ・学習指導等の研修会の内容を、生徒の実態に合わせて実施していくことが大切である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学習・生徒指導・進路指導・教育相談等に関する研修を実施する。 ・授業公開・授業研究を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育、特別支援教育の研修を実施した。 ・11月に相互授業参観を行ったり、初任者が研究授業を実施したりした。 		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策		
学校事務	経営方針に基づく教育環境の整備	・円滑な学校運営と教育活動の推進のため、関係各部署との連携を図りながら、安心、安全な環境づくりに努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の範囲内で老朽化した学校設備等の整備に努めた。台風等による緊急対応案件では、県教委と連携を図り、一部は修復できた。しかし、大規模な被害を受けたグラウンドのフェンス等については、予算もなく、手つかずの状態となっている。一刻も早い修復に向けて手続きを進めなければならない。 ・整備の必要な箇所については、従来から把握している修復が必要な箇所と併せて整備計画を立て、教委と相談しながら、強く働きかけていく。 ・文書管理等の適切な事務処理に努め、学校運営費及び学校徴収金等の執行については、説明責任を果たせるよう内容を精査し、限られた予算内での適正な執行に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設備の整備・管理は学校事務職が担うべき分野であり、よりよい教育環境づくりに不可欠である。 ・学校運営予算が削減されている状況にあるが、適正な事務執行に努め、計画的な整備を図っていく。 		
	文書・物品の適切な管理	・文書の收受・施行等文書管理を適切に行い、物品の管理についても、的確に行えるよう管理体制の強化に努める。	B				<ul style="list-style-type: none"> ・文書管理業務は、職員間で連携を取りながら適切に行うことができた。 ・物品管理は、可能な限り現在高を確認し、管理台帳等の整備に努めた。 	
	光熱水費及び学校運営経費の適切な執行管理	<ul style="list-style-type: none"> ・予算確保が年々困難となる状況のもと、より一層、削減、省エネ等についての啓発に努め、予算執行を適切に行う。 ・生徒の活動に対し、充実した支援ができるような徴収金等の執行に努める。 	B				<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン更新や気候等の要因もあり、昨年度より削減できた。職員の省エネ意識も向上してきた。気を緩めず、継続して光熱水費の削減に努めなければならない。 ・学校徴収金の執行にあたり、内容を検討し、適正な支援ができるように努めた。今後、定数削減等で、厳しい予算となることから、より適正な執行が必要となる。 	
広報・渉外	学校教育活動の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「紅葉」の発刊及びWebページ等による広報活動の推進。 ・オープンキャンパスの内容の再検討を行う。特に、生徒自身が自分たちの感じた学校の良さを自分たちの言葉で伝えることができるような体制をつくる。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会中心にオープンキャンパスを企画していく中で、生徒自ら判断し、動くことが多くなった。今後も「生徒の自主性」を大事にした学校行事にしたい。 ・育友会・印刷会社との連携をとりながら年々完成時期が早くなり内容も充実している。 ・HPは、担当者が各分掌と連携をとりながら、定期的に更新している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの開催時期において、他の高校の開催時期も調査する必要性を感じた。 		
	保護者・地域・関係諸機関の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・本校パンフレットの内容を充実させ、新聞などの外部広報機関との連携をはかる。 ・オープンキャンパスの案内として、クラブを通して、チラシを配布する。 	B				<ul style="list-style-type: none"> ・本校パンフレットを中学校訪問や本校来客者、出張先などで配付し、本校特色を多くの人に理解してもらった。クラブを通して配付したオープンキャンパスのチラシなども大いに効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事やクラブなどの生徒の活躍もより細かくHPや報道機関を通して発信していく必要がある。
	同窓会の組織	・同窓会組織の整備、名簿管理の業者委託を行う。	B				<ul style="list-style-type: none"> ・新会員の同窓会参加を促し、少しずつ活性化に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度同窓会が軌道に乗れば、役員再編制を考えたい。
図書情報	図書情報を活用した学校生活の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、教員からの推薦図書を充実させる。 ・授業をサポートできる、授業・総合学習などで利用できる図書館作りを進める。 ・生徒自身が必要な情報を自ら得られる「場」とできる環境整備を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科、先生方や生徒からの推薦・要望のあった幅広い分野の図書が増え、授業、学校行事などのサポートができるよう努力した。良書との出会いや読書意欲を喚起できるような取組みを進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書選定における情報収集・選書、図書紹介等をさらに工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NIEを活用した図書館運営に努めてほしい。 		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
	図書室利用の促進と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館だより、新着図書の紹介などの内容をより充実させる。 ・図書館利用と読書意欲を喚起する取り組みを進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事（朝の読書、図書館ライブ等）では、広報活動や図書委員会活動の活性化に努めた結果、本に親しむ生徒が増えた。 ・生徒の意識や要望などを把握し、図書館運営に反映できるよう努力した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事においては事前指導を徹底し、内容の改善検討、図書委員会活動の充実を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館ライブは画期的な取組である。図書委員だけでなく、広く生徒が参加できるように工夫を行う。
	教育活動に関する情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・Webページなどを通じて、本校生徒、保護者、地域、受験生に向けて学校の活動・魅力を発信する。 	B			
環境・美化	校内施設の保全、安全・防災環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・美化関連用具、及び清掃用具の点検保全を行う。 ・四季折々の花を絶やさない美化活動を行う。 ・救助袋を使用した防災学習・訓練の実施する。 ・「きれいな学校・西和清陵高校」をスローガンに校内美化の意識を高める。 ・安全点検を日常的に行うことにより、危険箇所や潜在危険を早期に発見し、事故災害の可能性を除去する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具の不具合が多かった。 ・危険な生徒用机と椅子の交換を昨年度より多くした。 ・ビオラ、パンジー、チューリップや葉ボタンなどの植栽を行い、年間を通して花を絶やさないようにした。 ・救助袋体験は雨天のため実施は出来なかったが、「釜石の奇跡」を視聴することによって防災意識が高まった。 ・時間が経つにつれ「きれいな学校」への意識が高まり、目立つゴミが少なくなった。 ・緊急を要する危険箇所（手すり）を発見し、すぐに対処した。今後も継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほうきの先端やモップ部分の交換など清掃用具の整備が必要。 ・「きれいな学校」のため、拭き掃除の頻度を高める。 ・安全点検の定着化。 ・地域に貢献できるよう通学路清掃の機会を増やす。 ・ゴミの分別回収の意識の涵養を普段から行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内外で学習環境を整えるため、様々な取組を行っている。花壇等継続していくこと。また、教育の一環としての取組が大切である。 ・生徒のゴミの分別する態度が育ってきている。そのような態度を校外でも発揮できるようにする。 ・地域の三郷町のクリーン運動や通学路清掃など、さらに充実した活動になるように努める。
	地域に「開かれた学校」となり地域コミュニティにおける役割を担う	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路清掃について、地域の行事の一つとして定着させるとともに、生徒が地域の人たちとコミュニケーションをとることができる体験の場にする。 ・ゴミの分別回収の啓発を行うとともに徹底する。 	B			
第1学年	基本的生活習慣の見直しから確立へ	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を励行させる。 ・時間厳守を徹底させる。 ・身だしなみの指導を徹底する。 ・礼儀や正しい言葉遣いを定着させる。 ・規範意識の定着させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や礼儀については比較的良好にできているが、学期が進むにつれて遅刻が増加した。 ・化粧や頭髪の違反等は大きく目立つことはなく、違反に対する指導にも素直に従う生徒が多い。 ・アルバイト等の影響か、予習復習に時間を割く生徒が減っているように感じる。また、授業に関しては落ち着いて取り組んでいると感じられる。 ・集団への帰属意識は高いと思われるが、積極性に欠ける生徒も一部見られる。 ・職業セミナー等での生徒の取り組みには、積極性も見られ、将来を真剣に考えている意識の高い生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返して遅刻する生徒への指導に工夫が必要。放課後作業等もするべきかとも考える。 ・2年生からでも部活に入部するよう啓蒙し、安易にアルバイトに走らない意識付けが必要である。 ・進路関係の行事をより良い物にして、生徒の学習意欲につながれば良いと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻指導については、遅刻を未然に防ぐために生徒のキャリア形成を促すような取組も必要である。 ・学習については落ち着いた環境で行っているが、学習内容の深化までは至っていない。生徒の実態に応じた指導の一層の充実を図る。
	学び直しから基礎学力の充実へ、	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本的内容の復習をさせる。 ・家庭学習の定着（予習復習）させる。 ・授業を大切にすることの育成する。 	B			
	帰属意識と愛校心の育成および学校生活での目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活の理解となかま意識を育成する。 ・学校行事や課外活動へ、積極的に参加させる。 ・思いやりの心を育成する。 ・将来を見据えた学校生活を充実させる。 	B			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
第2学年	中堅学年としての自覚と基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の向上と規律ある行動を確立させる。 挨拶の励行させ、基本的生活習慣を確立させる。 修学旅行等の学校行事を通じて集団意識、思いやりの心、愛校心の高揚を図る。 	C	<ul style="list-style-type: none"> クラス替えによる人間関係の変化で、落ち着かない雰囲気ですタートした。遅刻・欠席・問題行動も多く、「ちゃんとすることが当たり前」という空気を作ることがなかなかできなかった。成績や進路のことを気にしだした修学旅行以降に、ようやくある程度の落ち着きを見せ始めたものの、同じ生徒が遅刻・欠席を繰り返している状況は変わらず課題は多い。頑張っている生徒のやる気が失われることのないように、全体に目を向けていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒はもちろん、保護者や教員間でも密なコミュニケーションをとり、個別の評価をしっかりとした上で、生徒の行動への指導・支援を行っている。今の自分と向き合うことによって、なりたいた自分との差を考えさせる機会をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は3学年となるので、進路指導に絡めた生徒指導を充実させる。 多様な生徒の特性を把握し、それを学年で共有し、指導に生かしていくことが大切である。
	進路実現のための基礎固め	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切にすることを育成する。 基礎学力の充実させ、家庭学習を実現する。 自己能力の認識と開発をさせる。 進路に関わる情報を収集させる。 	B			
第3学年	最高学年としての自覚と社会の一員となるための資質の育成	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣を確立させる。 規範意識を向上させる。 学校行事等に主体的に参加させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 最高学年として、基本的生活習慣や規範意識が社会生活に不可欠な要素であり、それらを定着させることを重点に指導した結果、一定の成果を挙げた。学校行事等には特に積極的に取り組み、充実したものとなった。 進路実現について、昨年度より進路実現に関わる情報収集や具体的目標の早期設定に努めた。進学については多くの者が第1希望の進路先に落ち着いた。就職については、1次の内定率が非常に高かった。また、家庭学習、促進講座の参加、進路決定後の学習の3点が不十分なため、社会生活に向けた更なる実力養成が課題といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現について、目標を高く設定させること、努力して入った進路先で更に頑張ろうという意識につながる。そのために、3年間を通じて実力を伸ばす取り組みを学校全体の重要課題として、再度考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒によっては、自己の目標をしっかりと持って学校生活を送り、卒業した生徒がいる。その反面、それが実現できなかった生徒がいた。それらを総括し、学校全体の課題とし、その解決を図る。
	進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 具体的目標を早期に設定させる。 家庭学習を充実させ、促進講座に積極的参加させる。 進路決定後の指導を徹底する。 	B			